

令和 8 年度 第 2 回理事会 第1号議案資料

令和 7 年度
事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日

1. 翔裕園
2. 馬室たんぽぽ翔裕園
3. こうのすタンポポ翔裕園
4. ふきあげ翔裕園
5. 夢工房翔裕園
6. 北こうのす翔裕園
7. 栗橋翔裕園／ケアハウス栗橋翔裕園
8. 栗橋ナーシングホーム翔裕園／栗橋グループホーム翔裕園
9. 蓮田ナーシングホーム翔裕園
10. かわぐち翔裕園
11. しょうぶ翔裕園
12. 国見ナーシングホーム翔裕園
13. 亀岡老人福祉センター
14. 国見あおば翔裕園
15. 南方ナーシングホーム翔裕園／南方グループホーム翔裕園
16. ケアホテルすみさん家
17. たかのす翔裕園
18. くまもと龍田翔裕園
19. にしはら翔裕園
20. くにさき翔裕園
21. 元気ケアプランニングセンターさいたま

社会福祉法人元気村

令和 7 年度 第 33 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村

翔裕園

令和7年度 翔裕園 事業報告

施設基本方針	
もうひとつの我が家・もうひとりの家族	
施設年度目標	
全員経営 ～職員ひとりひとりが自発性を持つ～	
重点項目に対する実績報告	
①差別化/付加価値 今年の目標である「家族との交流を増やす」と事で春・秋に近くの公園に花見、散歩に出かける機会を設けました。6月には食事会を開催して一緒に楽しめる時間を作りました。納涼祭に家族参加を促し32組のご家族が縁日や屋台を回ったりして楽しめました。敬老祝賀会には24組のご家族が来園されました。3月には感謝祭を開催して地域の方を含めた交流会を開催できました。 ②組織力の強化 組織体制の構築で副主任のフロア配置は出来ましたが年度末に1名退職されて再度構築が必要な体制になっています。半年間は2名体制が取れて基礎の構築できたので今後活かせる地盤は作れた感じがします。国際人財職員の育成で本人任せにしている部分が多くあったが日本語勉強会の資料提供や地域での参加を促してきました。日本語検定試験N2試験に2名合格しました。 ③採用力の強化 Instagramを中心に採用活動を進めてきました。施設の情報を伝える事を中心になりますが働く職員に福利厚生 の充実、ご利用者の笑顔を発信して「働いて見たい」魅力を発信しました。前半登録数は3300名、3月末には3900名まで達しています。投稿も週1回は必ず投稿でき、採用面接の時は「インスタ見てきました」とすべての面接者が話されて改めて質の充実が必要と感じました。 ④生産性の向上 職員のシフト作成に時間を割くことが出来るように「シフトメーション」を活用しています。作成者が一から作るより2日以上 の削減ができます。また会議議事録ソフトの「Noman」を活用して書記時間の短縮が出来ています。アームスの不具合箇所も数か所ありましたが早急に対応でき事故防止にもつながっております。 ⑤収益力の向上 特養の入院時の空きベッドを有効に活用するため、チームス上で居宅事業所と情報を共有してきました。また外部居宅事業所には訪問を中心に行田、熊谷、羽生、加須と少し離れた地区にも営業に行きました。電話やFAX営業と訪問して空きベッドや施設での活動報告を伝えています。デイでは行事の際には追加利用者を獲得するため職員が自然と動きが出来ており月平均30件のスポット者を獲得出来ました。 ⑥地域貢献 月1回の子ども食堂の手伝いを実施して登戸地区では毎回子どもたちが参加してくれます。納涼祭、翔裕園の日、感謝祭では多くの方が参加されて賑やかな時間が過ごせました。 【全体総括】 一年間数字にこだわった年でした。地域に貢献するため空きベッドを埋める事を話してきました。相談員も徐々に理解して数字の意識を始めるようになったと感じます。冬場は入院者や看取り者が多く出てしまった。連続で続いてしまったため空きベッドがすぐに埋められずロングショートからの切り替えが増えてしまいショートの稼働が低下した。最後まで回復する事が出来ず不安定でした。元気村1号店として地域に知ってもらった施設になるため地域の特産品の販売の実施。また中庭には地元で生育した花を植えて地域との繋がりを持ってきました。10月には翔裕園の日として活動が出来て多くの市民の方が足を運んでくれました。3月には浦和学院高等学校生のダンス披露で大きく盛り上がりました。少しずつですが地域発信ができた1年間でした。	

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R6 実績	93.8	93.2	93.3	93.9	95.6	97.0	99.1	99.1	96.5	96.5	97.9	99.0	96.2%
	R7 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0%
	R7 実績	98.8	96.0	97.1	98.4	97.9	93.1	96.2	97.8	98.8	98.9	98.7	97.3	97.4%
短期	R6 実績	98.5	77.4	112.1	114.4	98.5	92.8	100.0	96.4	98.7	99.2	101.6	101.4	99.3%
	R7 目標	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0%
	R7 実績	102.5	97.5	99.4	97.2	96.2	103.0	94.7	80.0	89.3	87.8	90.6	86.8	93.8%
通所	R6 実績	94.2	93.2	92.7	95.6	88.0	93.1	88.8	86.8	83.0	77.5	83.8	83.3	88.3%
	R7 目標	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0%
	R7 実績	83.2	86.7	87.6	97.1	93.8	95.3	93.5	94.8	93.8	93.7	92.9	92.6	92.1%
爽やか通所	R6 実績	38.2	39.4	38.8	38.6	35.0	43.1	41.7	38.8	42.7	42.5	43.2	44.2	40.5%
	R7 目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0%
	R7 実績	43.6	40.6	40.0	39.2	40.7	44.3	47.7	47.2	49.2	48.0	47.2	50.2	44.8%
居宅	R6 実績	253	254	255	261	254	252	237	233	232	223	219	220	241.1件
	R7 目標	277.6	277.6	277.6	279.6	279.6	280.6	280.6	281.6	281.6	281.6	281.6	281.6	280.1件
	R7 実績	275.3	279.6	263.6	282	281.3	263.3	258.3	265	282.6	281.6	290.3	300	276.9件

令和 7 年度 第 22 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村

馬室たんぽぽ翔裕園

令和7年度 馬室たんぽぽ翔裕園 事業報告

施設基本方針	
TAKE ACTION！そして STEP UP！行動あるのみ	
施設年度目標	
・職員一人一人が目標をもって、「やりたい」を実行する ・利用者と家族が過ごす時間を増やして、家族とのつながりを多く持つ	
重点項目に対する実績報告	
①差別化/付加価値 GG式口腔ケアではシルバー認定取得、ゴールド認定には至らなかったが、職員の口腔ケアに対する意識は大きく向上、歯科医師からケアの質が向上していると評価を受けた。また、「食」を通して様々なイベントを開催、日曜日デいの空きスペースを活用したスポーツバーの開店や、馬室ベーカーリーの開催など、生活の楽しみや役割を感じられる体験型イベントを実施した。利用者が「選ぶ・支払う」という日常感を味わい、職員と同じ時間を共有しながら笑顔や一体感を生む機会となった。 ②組織力の強化 主任・副主任が役割を明確にし主体的に動いたことで、責任の所在が整理され縦のラインの安定と情報伝達ルートが確立された。定期的な理念研修やありがとうカードを通じ、互いを認め合う関係が広がった。ES調査およびグレカン度は前年より5%低下しており、特に将来像を描く部分では38%と低値を示した。職員に、より丁寧に寄り添う面談やフォローの必要性が明確となった。 ③採用力の強化 県立大学や他介護福祉士専門学校からの実習の受け入れを積極的に行った。実習受け入れのための指導者講習には2名参加、計9名体制となる。敬老会には地元の高校生が書道パフォーマンスを披露、地域とのつながりを広げることができた。全員人事・カイトケより各1名採用につながり、施設全体のインスタ投稿も定着してきた。 ④生産性の向上 入浴リフトと走行リフトの導入により、一人介助が可能となり、業務の安全と効率が向上した。従来型は、インカムの使用開始により、即時に情報共有が可能、確認作業やヘルプ要請の時間が短縮された。デイサービスは、連絡帳記入の簡略化を行い、アクティビティへの参加時間を生み出すことができた。人員配置に関しては、目標未達(ユニット1.96:1従来2.12:1)だったが、生産性の意識は浸透し、職員が考え行動し始めた。事務業務見直しにより残業時間の削減ができた。 ⑤収益力の向上 特養従来98.3%(達成)ユニット97.7%(▲0.7%)(未達)通所91.8%(達成)、特養では、ユニットからのスライド入居体制の構築とユニットメインの待機者確保に専念でき稼働の向上につながった。加算の一部は未算定であったため、体制整備の課題が残った。デイサービスは、稼働は目標達成したものの介護度の低下により次年度の中重度算定不可となり、減収が見込まれる。介護度を意識した新規獲得が必要である。 ⑥地域貢献 翔裕園の日では警察と連携し、白バイ来園による交通安全啓発を地域と共に実施した。出前講座の定例化により、リハビリ職を中心とした予防・健康意識の啓発活動が広がった。自治会との関係も深まり、清掃活動や獅子舞披露など双方向の交流が実現、施設内で地域文化に触れる機会を通じ、利用者の懐かしさや安心感につながる場となった。 【全体総括】 現場が主体的に動ける場面が増え、体験型の取り組みや日常に即した支援は、利用者の生活の質の向上と職員も楽しめる介護施設の魅力づくりにつながった。しかし、本年度の最大の課題は、人員配置目標を達成できなかった点であるが、一方人員の多い状況にありながら、具体的な成果や価値として示すこともできていなかった。組織面では縦のラインが構築されつつあるが、同じ方向性で考え、判断できる組織にはまだ至っていない。上層と現場が一体となり、同じ価値観・判断基準で動ける組織づくりが、今後の大きな目標であり課題である。次年度は、対話と判断基準の共有を軸に組織力を高め、人員の価値を最大限に活かせる運営へとつなげていきたい。	

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養 (従来)	R6 実績	95.7	97.0	96.5	99.6	97.2	96.3	96.5	94.9	96.8	96.0	99.8	99.8	97.2%
	R7 目標	98.4	98.4	98.4	98.4	98.3	98.3	98.3	98.3	98.2	98.2	98.3	98.3	98.3%
	R7 実績	97.4	95.2	97.3	98.2	96.9	97.3	99.4	100.0	99.6	99.1	98.8	99.8	98.3%
特養 (ユニット)	R6 実績	97.8	97.8	95.7	98.5	98.1	94.7	95.3	91.3	94.1	94.1	95.7	97.1	95.9%
	R7 目標	98.4	98.5	98.5	98.5	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4%
	R7 実績	98.7	96.1	95.5	96.6	98.2	96.3	96.2	97.9	98.6	99.2	99.5	99.7	97.7%
通所	R6 実績	82.0	84.5	84.9	85.0	79.1	79.8	86.0	88.4	85.3	80.0	77.0	75.0	82.3%
	R7 目標	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0%
	R7 実績	86.3	91.1	93.6	95.4	92.1	92.6	91.2	95.3	90.0	91.1	93.1	91.4	91.9%

令和 7 年度 第 21 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村

こうのすたんぽぽ翔裕園

令和7年度 こうのすたんぽぽ翔裕園 事業報告

施設基本方針	
～戮力協心～	
施設年度目標	
全員の力を結集し、一致協力して結果を残し、皆が最幸な一年に	
重点項目に対する実績報告	
①差別化/付加価値 ・子供×高齢者の交流をアップデート。毎月交流出来る行事を通年で開催出来た。令和8年度は毎月を毎日へ。 ・全ての施設イベントは地域協働で開催。地域協働イベントがこうのすたんぽぽのスタンダード化となった。 ・残念ながらGG式排泄ケアプログラムはSILVER認定であった。得たものとして、多職種協働・チームケアを今後強化していく	
②組織力の強化 ・国際人財の全員が早遅を一人で任せられるようになり戦力に。令和8年度は全員が夜勤まで一人立ちを目標とする。 ・理念浸透研修に関しては、忙しさを言い訳にして上手く開催せず。結果としてES調査にて理念浸透項目が前年対比-10% 令和8年度は理念浸透の体制を整え、理念を理解し体現し、自分の言葉で理念を語る事の出来る人財を増やしていく。 ・通年で離職率が10.3%。非常勤職員の雇用見直しを進めていった中での数値。令和8年度は離職率7%を目標としていく	
③採用力の強化 ・法人採用担当と共に。施設イベント時には必ず学生ボラを募り、多くの学生と触れ合えた。高卒採用2名達成。 ・日本人職員3名が介護福祉士試験を受験し、全員合格。今年度は2名の国際人財が試験へチャレンジ。合格を目指し、施設として全面的に支援していく。	
④生産性の向上 ・騎西特別支援学校とのデュアルシステムは月2回→毎週へと変更する事が出来た。学生の中から1名当園への就職希望者あり。環境整備の質を学生に頼っていくと共に、障害者雇用にも繋げていく。今後も福祉を良くしていく。 ・介護看護の人員配置の適正化だけでなく、全体人件費を含めた費用削減に取り組んだ一年であった。まだまだ費用削減をしていく必要がある為、今後も人件費率60%未満を目標とした施設経営を行っていく。	
⑤収益力の向上 ・ユニットリーダー研修生の受入れ枠を広げて、通年で収益141.6万円の着地。今後も積極的に受け入れを行っていく。 ・特養の目標稼働は未達であったが短期は達成。介護医療連携に関しては、もっと形を作れたはず。共生病院の体制を聞きながら、より良い連携を今後も目指していく。 ・訪問介護において、こうのす共生の家へのサービスを元気村で請け負い、その分件数と収益を増やす事が出来た。	
⑥地域貢献 ・入居者の社会参加を推進したく、進めてきた1年であった。施設イベント時の入居者による出店や入居者が作成した作品の図書館への寄付や、物産展での販売等を行う事が出来た。令和8年度は自立支援の先に社会参加があるという目的を持ち、進めていく。	
【全体総括】 売上を生み出す根拠は何か、人件費適正化や費用削減に何が出来るのかを考えて行動してきた1年であった。結果の着地としては収益103%、経常160%の着地で終える事が出来た。施設経営の適正化をこれからも進めていく中で、しっかりと中身の質にもこだわっていきたい。日々のサービスやアクティビティ、人財が不足していく未来を見据えて業務効率化だけでなく、マンパワーの創出を意識していく。マンパワーは地域に眠っている為、今後も地域共生を不動のテーマとした施設作りを行っていく。	

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R6 実績	95.9	96.1	99.6	95.9	95.8	96.6	97.0	98.3	96.4	94.2	93.6	94.4	96.2%
	R7 目標	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5%
	R7 実績	96.5	95.4	93.3	96.5	96.2	95.1	96.0	97.0	97.6	99.0	97.3	95.4	96.3%
短期	R6 実績	100.5	102.2	91.0	96.8	98.1	91.7	102.4	92.0	96.9	98.7	106.0	97.7	97.8%
	R7 目標	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0%
	R7 実績	100.8	93.4	100.8	104.5	101.5	102.0	96.8	99.7	103.2	96.6	96.4	99.3	99.6%
通所	R6 実績	89.6	88.4	85.7	86.8	83.0	88.8	87.7	82.7	86.2	80.2	85.3	84.3	85.7%
	R7 目標	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0%
	R7 実績	86.8	84.3	93.2	90.9	90.6	90.5	91.1	87.3	87.7	86.7	80.8	82.7	87.7%
訪問	R6 実績	521	546	540	520	514	471	497	480	526	450	525	560	512.5件
	R7 目標	550	574	598	622	646	646	646	646	646	646	636	646	625.2件
	R7 実績	619	642	541	580	760	767	758	865	928	899	793	941	757.8件

令和 7 年度 第 9 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村

ふきあげ翔裕園

令和7年度 ふきあげ翔裕園 事業報告

施設基本方針	
自ら考え行動し、みんながそれぞれの想いを形にできる施設にしよう。	
施設年度目標	
・目標を達成するために自分たちがいつ・何を・どうやって実施するのか計画する。 ・所属部署に固執せず、すべての職員が施設全体の事業に従事する ・「地域に根差した施設」としてのポジションを強化する	
重点項目に対する実績報告	
①差別化/付加価値 ・ご利用者・ご家族から募った商品を使用し、秋祭りイベントにてフリーマーケットを開催。地域の居宅事業所も参加された。 ・定期的な外出機会を設け、ご利用者の社会参加を促進。地域での期日前投票へも必ず参加する事ができた。 ・通所ご利用者へアンケート調査実施。ご利用者の「なりたい姿」を目標とし、それぞれの目標達成の為へのトレーニング内容を行った。	
②組織力の強化 ・定期的なポストMTG、職員面談の実施により、下半期の離職は「体調不良による入院」「進学による退職」のみとなった。 ・プレゼン大会の実施。各職員が自分の想いをそれぞれの形で発表する事が出来た。	
③採用力の強化 ・ハローワークからの採用1名。ジョブメドレーからの採用1名。前年度、進学の為退職した職員のパート採用1名。さきたま国際の学生アルバイト1名の入職。様々な形の採用を行うことができた。 ・海外人材を積極的に雇用。ご入居者・ご利用者の反応は良好であり、新しい採用ルートが確立された。	
④生産性の向上 ・効果的なnomanの使用による、会議録等の作成を行うことができた。 ・所属部署にこだわらず、それぞれの部署をまたいでの業務を行った。通所職員が有料イベントの送迎を行う・有料職員が通所イベントの見守りを行う等「今、自分がやるべきこと、できること」を意識した行動が見られた。	
⑤収益力の向上 ・有料老人ホームでのお看取りを実現した。今までの「要介護度が高くなったら、特養に入所しなければならない」という意識を変えることができた。それにより、より長い期間入居を継続できるようになった。 ・稼働・訪問件数を常に意識し必要なサービス提供に向けてCMへアプローチを続けた。	
⑥地域貢献 ・近隣学童保育所から、ダンスパフォーマンスの発表の場として施設を提供。ご利用者の反応も素晴らしく、今後の活動の関係性拡大につながった。 ・施設イベントに地域のボランティア団体を多く招待し、活動を披露する場として提供した。団体側からも「～～にそちらで発表会をしたい」とのアプローチをもらう関係を確立した。	
【全体総括】 ・ふきあげで今まで行ってきた事のブラッシュアップとともに、新しい事への挑戦を行った1年であったと思う。その中でも今まで以上に意識したことの一つとして「計画性を持ったイベント開催」がある。これまでよりイベント実施に対し時間的な余裕をもって取り組むことで、より職員同士の協力体制が深まったと感じた。職員としては海外人材の登用により、業務整理を明確にすることができた。 - また、施設でのお看取りの実現も大きな変化の一つであると考え。ご家族からの強い希望により、実現につながった事であったが、職員間の意思の統一や関連病院・訪問看護との連携も深くなっていったと思う。 - 令和8年度は更に各サービスおよび職員の質を高めて高いブランド力を持つ施設としたい。	

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
住宅型 有料	R6 実績	100.0	100.0	100.0	96.9	95.0	95.0	95.0	92.5	91.6	95.0	95.0	99.0	96.3%
	R7 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0%
	R7 実績	99.0	91.0	90.0	86.0	84.0	93.0	96.0	92.0	97.0	95.0	88.0	95.0	92.2%
通所	R6 実績	85.4	87.9	90.2	88.4	83.2	88.1	86.7	85.0	87.1	85.6	87.1	87.1	86.8%
	R7 目標	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0%
	R7 実績	89.0	90.0	85.0	88.0	86.0	77.0	79.0	79.0	79.0	84.0	80.0	83.0	83.3%
訪問	R6 実績	543.0	522.0	550.0	564.0	512.0	519.0	544.0	495.0	457.0	475.0	502.0	540.0	518.6件
	R7 目標	550.0	550.0	550.0	550.0	550.0	550.0	550.0	550.0	550.0	550.0	550.0	550.0	550.0件
	R7 実績	603.0	576.0	603.0	644.0	561.0	703.0	745.0	723.0	766.0	769.0	550.0	620.0	655.3件

令和 7 年度 第 16 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村

夢工房翔裕園

令和7年度 夢工房翔裕園 事業報告

施設基本方針	
唯一無二の事業所として存在感を示す	
施設年度目標	
【計画相談】	地域で暮らす障がいをお持ちの方と家族のよりどころになる
【就労継続支援B型】	自分の成長が実感できるサービスを提供する
重点項目に対する実績報告	
①差別化/付加価値	
・計画相談 …「なでもおしゃべりタイム」を設ける 2回／月	⇒ 実施（60人／年）
・継続B型 …就労者0名輩出（令和8年4月1日就労決定）	⇒ 未達成
②組織力の強化	
・職員満足度調査 …グレートカンパニー度GG内1番	⇒ 第2位
・理念浸透 …施設内研修の実施、朝礼で職員クレドカレンダー唱和	⇒ 実施
・GGイベントを最大限活用し他部門との親睦を図る	⇒ 実施
③採用力の強化	
・離職者	⇒ ゼロ
・精神保健福祉士、社会福祉士資格取得実習生受入れ	⇒ 3名
④生産性の向上	
・営業日の最大化 …営業日としてカウントできる日を利用者イベントや生産活動販売日として最大限活用する	⇒ 14日間活用
⑤収益力の向上	
・計画相談 …「相談支援事業の複数事業による協働モデル事業	⇒ 令和8年8月予定
・継続B型 …平均工賃月額23,793円、ランク平均工賃30,000円以上35,000円未満	⇒ 未達 20,000円以上25,000円未満 食品部門の落ち込みが原因である
⑥地域貢献	
・元気村家族食堂の食材集めに協力する	⇒ 食材保管場所、配達等で協力
⑦その他	
・DX化 …BONX継続利用、Noman利用開始（議事録）、障害者施設用eラーニング導入	⇒ 実施
・障害者雇用 …障害者雇用会議開催	⇒ 未実施
・ケア研究会出場	⇒ 出場
【全体総括】	
令和7年度は、多機能型から単独就労継続支援B型に変更と相談支援事業開設の年度となりました。旧移行支援利用者は、年度内には就労できませんでしたが令和8年4月1日に1名就労に至りました。また平均工賃月額は、食品売上の落ち込みが主な要因で23,898円となりました。相談支援におきましては、相談件数を順調に推移しております。来園度、複数事業による協働モデル事業を行うことにより収益改善に取り組みます。	

年間数値目標と実績（利用率）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
計画相談 (件数)	R6 実績	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	R7 目標	—	3	3	5	5	5	7	7	7	10	10	10	7
	R7 実績	—	7	18	20	27	23	19	14	26	23	30	23	21
継続B型	R6 実績	95.6	94.5	95.8	94.6	82.4	87.3	90.3	84.7	92.3	95.4	91.9	93.3	91.5%
	R7 目標	89.0	92.0	95.0	97.0	97.0	100.0	103.0	103.0	106.0	106.0	106.0	106.0	100.0%
	R7 実績	90.0	89.7	91.2	91.2	81.2	95.0	100.7	80.6	94.4	97.0	91.0	98.7	91.7%

令和 7 年度 第 1 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村

北こうのす翔裕園

令和7年度 北こうのす翔裕園 事業報告

施設基本方針

One Team, One Goal ～一つのチームで一つの目標～

施設年度目標

- ・開設3ヶ月以内の早期満床
- ・特養、デイサービスの垣根のないかわり

重点項目に対する実績報告

①差別化/付加価値

開設初年度のため、手探りではあったがイベントや各取り組みを行ってきた。敬老会やイルミネーション、翔裕園の日、外出イベントなどを実施。花火大会の日のご家族が40名以上来園されるなど盛り上がった。デイでは、レッドコードやビュッフェなど以外に、外出イベントや移動販売カーなども呼び、サービスの幅を広げられた。ネイスはインストラクターのスキル上げるために他店舗見学などを実施。初年度ではあったがしっかりと取り組みができた。

②組織力の強化

組織体制の構築として、介護課には主任・副主任を配置し、その他部署には主任を配置。ベースの基盤は作ることができた。ポストが主体となって行動ができるように毎週短時間でポストMTGを行うなど、話し合う頻度を増やし行動判断がしやすい体制を構築。特養やデイで行うイベントに他部署も関わるようにし、垣根のない環境を作れるようにした。

③採用力の強化

認知を広げるためにInstagramを活用し情報発信を実施。年度内でフォロワー1000人を達成。応募者でInstagram閲覧者もあり効果は出てきている。開設から19名の採用に繋がっており、地域の認知度としては広がってきている。

④生産性の向上

ケアテック(記録システム)、ケアデータコネク(CDC)、インカム(バディコム)を導入。インカム使用により各部署との連絡共有はスムーズに行っている。CDCはセンサーと連携しているがケアテックと連携ができていないため、記録負担の軽減には繋がらなかった。ニュークックチルは、毎月栄養士と厨房職員でMTGを実施。食事提供の運営ベースはできたが、再加熱カートの加熱のムラなどがあり質については継続課題。

⑤収益力の向上

特養は1ヶ月満床を達成。肺炎や尿路感染などによる入院者が生じたが、居宅営業などを実施しSS利用を獲得できことで、第4Qは平均96.9%と目標達成。デイは、営業を実施し月平均105件、新規月平均13.4件獲得できた。稼働率は年度末89.8%と未達ではあったが、ケアマネとの関係性も築くことができている。ネイスは登録188件と達成。ネイス本部と連携し、イベント開催やポスティング、Googleレビューのロコミなどを実施し新規獲得に繋がっている。

⑥地域貢献

ボランティア団体の受け入れを開始し令和7年度は5団体を定期的に受け入れ実施。また、近隣の学校にも挨拶周りをし、令和8年度に職業体験などを受け入れる方向で予定。地域向けイベントは、開設時と翔裕園の日に開催し多くの方が来園。来園された方がデイサービスの利用に繋がるなどイベントを通して地域との繋がりを作ることができている。

【全体総括】

開設初年度のため、運営基盤の構築や職員の体制づくりなどを行ってきた。各イベントや外出などの取り組みは行うことができ、ご利用者も楽しんでいた。特養は1ヶ月満床など稼働率の面では目標達成したが、ケアの質の部分では課題が残る。中途職員が多いため、理念やGG式プログラムの浸透など、ケアのベースとなるものが次期の課題。デイやネイスは毎月新規獲得はできた。継続的な集客とサービスの質向上が重要なため、次年度も引き続き継続課題。開設年から地域活動は開始できているため、さらに地域に開かれた施設になるように地域の方が来る施策を行っていく。

年間数値目標と実績(利用率)

[illegible]

令和 7 年度 第 32 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1日
至 令和 8 年 3 月 31日



社会福祉法人元気村
栗橋翔裕園
介護付き老人ホーム栗橋翔裕園

令和7年度 栗橋翔裕園 事業報告

施設基本方針	
ご利用者とご家族が集う笑顔あふれるプラットホーム	
施設年度目標	
・ご利用者も主役、ご家族も主役となるイベント作りで絆を深める ・次世代リーダーの発掘とマネジメント能力の強化	
重点項目に対する実績報告	
①差別化/付加価値 施設基本方針「ご利用者とご家族が集う笑顔あふれるプラットホーム」に基づき、ご利用者とご家族が楽しく交流できるイベント作りに注力し、屋外での夏祭りの開催など、コロナ禍以降制限されていた家族参加型の行事を拡充できたことは、家族間の絆を深め、施設のファンを増やす大きな成果となりました。 ②組織力の強化 年度目標である「次世代リーダーの発掘とマネジメント能力の強化」を掲げ、係長・主任による面談やマネジメント機会を継続しました。各リーダーが自部門の業務改善に主体的に関わる意識が芽生え、組織としての土台は固まりつつあります。一方で、次世代リーダーの選出については、次年度に課題を残しました。 ③採用力の強化 目標とした全員人事からの採用は叶わなかったが、スポットワークから訪問介護のスタッフが確保できるなど、短い時間からでも安心して働ける環境づくりを実践しました。この取り組みにより現場の深刻な人員不足は回避され、多様な働き方を受け入れる土壌が定着しました。 ④生産性の向上 特養ですでに導入している見守り機器の活用、デイサービスの送迎表の自動作成サービスやLIFEのデータ提出の効率化などにより、一定の成果を得ることができました。 ⑤収益力の向上 特養は年間利用率92.1%(目標96.0%)と、安定した稼働の維持が課題となりました。通所は87.9%(目標92.5%)と目標に届きませんでした。営業活動の成果があらわれ2月と3月ではじめて2ヶ月連続で93%以上を達成し、次年度に向けて明るい兆しがみられています。特定施設については、上半期が大幅に稼働低下させるも、下半期に巻き返し平均94.7%(目標96.0%)と、目標に迫る推移を維持しています。訪問は平均358.0件でしたが、3月にはじめて408件に達するなど、今後に繋がる成果を上げました。居宅も135.8件(目標140.0件)と、前年度(126.3件)から大きく実績を伸ばすことができました。 ⑥地域貢献 年々来園者が増えている秋祭りは、近隣中学校の吹奏楽部に参加していただくなど地域密着型イベントとして定着しています。また、近隣中学校への出前授業や老人サロンへの参加など、栗橋翔裕園を知っていただくための活動がみられはじめています。 【全体総括】 令和7年度は、「家族との絆」と「次世代リーダーの育成」という新たな方針に挑んだ1年でした。家族との絆については、イベントの開催で交流の機会を設けることができましたが、次世代リーダーの育成については進展させることができませんでした。また、数字の面においては、上半期は施設全体で稼働が低迷して重点施設となり、立て直しのアドバイスをいただき稼働の改善がみられ、下半期は収益と利益率で予算達成をすることができましたが、母体である特養とショートステイで安定した稼働があげられないことは継続した課題として残りました。下半期で稼働が躍進した特定施設と通所のネットワークをフックに地域との関わりをさらに増やし、そこで得た繋がりを特養・短期の稼働率V字回復へと繋げ、施設全体の収益力向上を達成してまいります。	

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R6 実績	96.4	96.7	96.9	92.7	96.1	97.2	94.8	96.3	93.6	89.2	88.6	90.8	94.1%
	R7 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0%
	R7 実績	92.3	93.3	91.0	90.7	93.1	89.5	93.5	93.8	93.3	93.5	89.9	91.7	92.1%
短期	R6 実績	111.3	115.8	105.9	117.4	101.6	103.0	116.4	113.3	95.2	110.7	125.0	121.6	111.4%
	R7 目標	106.5	106.5	106.5	106.5	106.5	106.5	106.5	106.5	106.5	106.5	106.5	106.5	106.5%
	R7 実績	121.3	127.7	121.0	117.7	102.6	96.0	103.5	99.0	91.6	90.7	122.1	120.6	109.5%
通所	R6 実績	92.1	85.9	85.5	88.0	87.4	90.5	90.1	92.1	92.6	91.8	91.5	91.4	89.9%
	R7 目標	92.5	92.5	92.5	92.5	92.5	92.5	92.5	92.5	92.5	92.5	92.5	92.5	92.5%
	R7 実績	89.1	86.9	90.6	85.7	80.1	83.7	89.8	87.4	84.6	89.0	94.4	93.7	87.9%
特定	R6 実績	89.8	95.0	95.9	95.8	97.1	99.1	99.1	94.3	92.6	90.9	95.0	94.4	94.9%
	R7 目標	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	96.0%
	R7 実績	91.5	85.3	88.5	93.8	97.8	98.9	98.1	97.3	95.7	98.8	95.5	95.7	94.7%
訪問	R6 実績	349	340	309	268	263	250	339	279	283	284	239	248	287.6件
	R7 目標	270	270	270	270	270	270	400	400	400	400	400	400	335.0件
	R7 実績	286	326	351	380	344	360	359	351	362	389	380	408	358.0件
居宅	R6 実績	123.0	121.0	124.0	121.0	121.0	122.0	118.0	125.0	132.0	134.0	140.0	135.0	126.3件
	R7 目標	140.0	140.0	140.0	140.0	140.0	140.0	140.0	140.0	140.0	140.0	140.0	140.0	140.0件
	R7 実績	141.0	144.0	147.0	138.0	137.0	132.0	133.0	134.0	132.0	129.0	132.0	130.0	135.8件

令和 7 年度 第 27 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村
栗橋ナーシングホーム翔裕園
栗橋グループホーム翔裕園

施設基本方針	
『 つなぐ・広がる・支える 』	
施設年度目標	
○老健・デイケアだから出来ることを広めていく。 ○見守り機器・AI機器を駆使した生産性向上を図る。 ○地域『サロン・周辺事業所・医療機関』への関わりを拡大・深化していく。	
重点項目に対する実績報告	
①差別化/付加価値	
・老健としてリハビリ特化でのサービスを提供 リハビリ会議の開催率、ほぼ100%にて実施、医師においても90%の割合で参加、 老健ならではの専門職による差別化を実施。	
②組織力の強化	
・グレカン度、前年比7.9%向上、業界平均では+2.7% ・各部署での役職者を増員、部署間の連携および組織力を強化。	
③採用力の強化	
・全員人事を主体とし採用力を強化。 職員紹介にて採用実績5名 ・SNSを活用した取り組みでは、Instagramの施設情報より、1名の採用へと繋がる。	
④生産性の向上	
・ナースコールの入れ替えを実施 現場職員の業務効率化のみではなく、相談員などの入退所時の業務も効率化、 生産性の向上に繋がる。	
⑤収益力の向上	
・地域の施設との連携 チームKUKKIでの情報応交換、相互連携を強化し、超強化型老健として8ヵ月稼働。 また、医療機関との連携では、医療・介護特化クラウドシステム『わんコネ』を試用開始。	
⑥地域貢献	
・地域へ出向いた取り組み 民生委員・社会福祉協議会・地域包括と連携し、介護講座4回、健康支援活動を12回実施。 ・地域を招いた取り組みでは、久喜市オープンガーデンへ登録、また翔裕園の日のイベントなどで、地域へ施設を開放。	
【全体総括】	
令和7年度は、施設基本方針を『 つなぐ・広がる・支える 』と掲げ、取り組みを行ってまいりました。施設内におきましては、多職種連携により職員同士を「つなぐ」ことで、ご利用者様へのサービス提供内容を「広げ」、ご入居者様の生活を力強く「支える」体制を構築いたしました。また、施設外におきましても、地域の方々と「つながり」、当施設の取り組みを広く発信するとともに、老健の強みである専門知識を活かした健康講座や介護講座を実施し、地域社会を「支える」活動を展開してまいりました。収益面におきましては、多職種連携による在宅復帰支援が円滑に進み、超強化型老健での算定を8ヵ月間継続。部門別ではグループホームにおいて目標未達となったものの、老健本体およびデイケアにおいて収益目標を達成し、事業全体として目標達成となります。	

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
老健	R6 実績	95.8	95.2	93.5	97.6	97.1	94.8	93.8	93.9	94.6	94.4	89.5	89.7	94.2%
	R7 目標	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0%
	R7 実績	91.1	91.4	94.0	89.1	91.4	88.4	87.6	86.7	90.6	88.8	91.2	91.9	90.2%
通所	R6 実績	90.7	94.3	97.4	92.4	91.5	90.0	92.9	95.3	95.1	98.4	96.3	93.2	94.0%
	R7 目標	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0%
	R7 実績	91.0	93.4	92.8	95.4	91.8	97.5	95.4	91.6	93.5	95.9	97.5	92.3	94.0%
グループホーム	R6 実績	97.4	100.0	96.1	90.1	89.6	90.1	89.6	94.4	92.3	87.2	93.1	89.7	92.5%
	R7 目標	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0%
	R7 実績	86.3	80.8	82.6	94.4	93.7	94.4	94.4	94.4	93.1	85.7	87.9	89.3	89.7%
居宅	R6 実績	101.0	101.0	98.0	99.0	98.0	92.0	95.0	99.0	96.0	96.0	106.0	108.0	99.1件
	R7 目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0件
	R7 実績	97.0	99.0	100.0	101.0	98.0	100.0	105.0	106.0					100.8件

令和 7 年度 第 30 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村

蓮田ナーシングホーム翔裕園

令和7年度 蓮田ナーシングホーム翔裕園 事業報告

施設基本方針	
地域と共に生きる、信頼される施設づくり	
施設年度目標	
多職種連携で地域に貢献する	
重点項目に対する実績報告	
①差別化/付加価値 ST2名体制とした今年度は嚥下機能の評価や食事介助のレベルアップを図り、肺炎による入院者削減に取り組みました。第3Q以降は歯科とも連携し内視鏡検査も行いました。併せて取り組んだGG式食事介助プログラムでは残念ながらゴールド取得は出来ませんでしたが、第1Qでは22名いた入院者数を第2～4Qトータルで22名にまで削減することが出来ました。 また、デイケアにおいてはリハビリAI機能評価機器を導入し、リハビリの「見える化」を図ることで、体験利用からの成約率向上に繋げることが出来ました。 ②組織力の強化 今年度よりケアトレーナーが誕生し、施設内では新人の育成を中心に活動を行いました。入職当初だけでなく、一年を通してフォローアップを行うことで特定技能職員も含め、大きな成長に繋げることが出来ました。半面、中途採用者に対する育成という課題も見えました。今年度は施設では初めてとなる専任施設ケアマネの配置を含め、現場だけでなく事務方の体制整備も行っております。また、栗橋NH居宅との統合も行い、居宅の大型化・効率化による収益向上にも取り組みました。 ③採用力の強化 従来より育児がしやすいなどの声が聞かれておりましたが、今年度も働きやすい環境整備に取り組みました。今年度のES調査では「育児がしやすい環境」や「仕事とプライベートの両立」「相談しやすい環境」などの項目で法人平均を大きく上回り、グレカンレベルをも上回る事が出来ました。また今年度はSNSでの発信にも力を入れ、実際にSNSを見て応募しましたという声も聞くことが出来ました。居宅においては実習受け入れからケアマネ採用に繋げることも出来ました。 ④生産性の向上 人員配置に関しては今年度の目標は達成できましたが、もともとの目標設定が低いので、実質的には未達と言っても過誤ではありません。また、取り組みの成果による人員削減というよりは退職による削減というのが現実ではありました。部署を超えた連携やタスクシフトといった取り組みを次年度強化していきます。オムツ削減に関しては法人目標を達成しており、更なる削減に取り組んでいるところです。AIやITC機器の活用に関しては蓮田NHは非常に後れを取っているのが現状であり、こちらも次年度の課題となっています。 ⑤収益力の向上 第1Qでの稼働低迷が響き、老健において目標稼働率に僅かに未達となりましたが、第4Qでは超強化型算定となり、2月単月では稼働率97.4%超強化型という結果を出すことが出来ました。要因としては入院者削減により、こちらの意図したベッドコントロールが可能となり、切れ目のない入所調整や在宅復帰に向けた調整がしやすくなったことがあげられます。今後の課題としては高稼働を維持しつつ超強化型算定にいかに関与できるかということです。通所においてはSNSの活用やチラシ等での地道な営業、アクティビティの充実によって一時稼働率は改善傾向となり、1月単月で92.3%となりましたが、再び低下傾向に転じてしまいました。次年度への課題となっています。 ⑥地域貢献 今年度も行政と連携した在宅介護教室開催や認知症講座への講師派遣、小中学校での介護体験授業への参加といった活動を継続しました。また市内のイベントへの参加や、翔裕園の日のイベント開催を通じて、地域の皆さんとの交流を図りました。 今年度より始まった、地域の避難所運営委員会にも参加し、防災への取り組みも行っております。 【全体総括】 大きな体制変更で始まった一年でした。施設運営、現場運営における中核となる職員の異動により、年度当初は全てにおいて手探りで運営していく状況でした。その中で、今年度は旧い慣習にとらわれず新しい蓮田NHを作っていくというコンセプトのもと、「変革のはじまり」と位置づけた一年としました。敬老祝賀会・夏祭り・翔裕園の日イベントではかつてない予算を費やしましたが、今までにない発想で皆様に喜んでいただくことが出来、大成功のイベントとなりました。日頃のアクティビティや施設内の環境整備においても確かな変化を感じており、「変革のはじまり」としては成功した一年と思っております。また経営面においても大きな低迷や混乱もなく、一定の成果は出せたと思っております。半面、今後に向けた課題抽出の一年ともなりました。人員配置やAI・ITC活用による生産性向上への取り組みは、次年度が本格的なスタートの年になります。また収益面に関しては、老健における「高稼働・超強化型算定」に向けた取り組みや、通所における稼働率改善、新規加算取得による収益増、リハビリ体制整備による「施設のリハビリ強化」と「訪リハの充実」といった課題に取り組んでいきます。	

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
老健	R6 実績	93.9	96.3	97.5	94.6	95.7	96.8	95.8	94.3	93.1	93.5	95.0	93.0	95.0%
	R7 目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0%
	R7 実績	93.0	93.1	92.8	92.8	95.8	97.0	92.4	94.2	95.6	95.0	97.4	95.2	94.5%
通所	R6 実績	88.9	90.6	87.9	86.8	86.5	91.0	90.5	90.4	88.1	86.8	86.5	89.6	88.6%
	R7 目標	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0%
	R7 実績	86.4	85.9	84.8	85.5	83.5	84.8	85.7	88.5	88.3	92.3	89.0	86.8	86.8%
居宅	R6 実績	200.0	199.0	206.0	208.0	192.0	201.0	204.0	204.0	205.0	197.0	197.0	199.0	201.0件
	R7 目標	180.0	180.0	180.0	180.0	180.0	180.0	180.0	180.0	180.0	180.0	180.0	180.0	180.0件
	R7 実績	205.3	197.0	215.3	209.6	212.6	200.6	202.6	204.6	307.3	306.3	304.6	307.6	239.5件
訪リハ	R6 実績	158.0	154.0	152.0	148.0	136.0	134.0	132.0	126.0	124.0	114.0	102.0	68.0	129.0件
	R7 目標	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0件
	R7 実績	116.0	126.0	126.0	120.0	106.0	114.0	112.0	100.0	116.0	104.0	100.0	34.0	106.2件

令和 7 年度 第 17 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村

かわぐち翔裕園

令和7年度 かわぐち翔裕園 事業報告

施設基本方針	
「その人らしい暮らしの実現」 ～サービス向上に向けて部署を超えた連携の強化～	
施設年度目標	
・稼働率97.0%維持※骨折事故防止による入院者削減(年4名→0名) ・離職率5%以下に派遣職員0名にし、安定した職員数を確保 ・デイサービスと特養、ショートステイ、居宅、事務所が連携して働ける環境作り	
重点項目に対する実績報告	
①差別化/付加価値 ・稼働率97.0%維持※骨折事故防止による入院者削減(年4名→0名)□ ・喀痰吸引資格者4名継続取得/年間認知症ケア研修取得(毎年2名) ・デイサービスと特養、ショートステイの行事を連動して行い、どの部署も楽しめ、協力出来る環境を作る。□	
②組織力の強化 ・次世代教育者の育成 ・職員能力向上のための研修会実施(他施設共同による実施) ・離職率5%以下	
③採用力の強化 ・外国人採用を見据えた採用、教育体制の確立介護福祉士合格に向けた教育の確立 ・派遣職員0名にし、安定した職員数を確保 ・スポット採用による時間限定職員採用	
④生産性の向上 ・各協力ユニットで常勤8名、非常勤職員1名配置を基準に営繕職員配置(人件費率60%以下) ・専門職以外でできる業務精査による効率化(掃除、洗濯たたみ、リネン交換) ・AIを活用することにより、作業の効率化を行う	
⑤収益力の向上 ・(特養)稼働率97.1%以上確保のため待機者確保 ・(短期・通所)地域活動参加、ボランティアなどの受け入れによる地域交流向上による施設宣伝発信活動実施 ・(居宅)登録者数120名確保に向けた営業により施設、他事業所への新規紹介2名/月	
⑥地域貢献 ・芝生をドックランとして解放する ・ボランティアに日曜日のデイルーム解放	
【全体総括】 本年度は「その人らしい暮らしの実現」を掲げ、特養・通所・居宅の三部署が一体となった協力体制の構築に注力しました。特養の稼働率は95.4%と目標の96.9%には届きませんでしたが、その分、短期入所の空床利用を例年以上に活性化させました。その結果、短期入所は108.7%、通所も95.4%と目標を大幅に更新し、居宅においても月平均124.8件と地域ニーズに即した高い実績を残せました。部署間の柔軟な連携が収益とサービスの質を支える形となりました。 一方で、「離職率5%以下」と「派遣職員0名」の目標は未達となりました。持病の悪化に伴う退職などが相次いだことが重なり、安定した人員確保が喫緊の課題として浮き彫りになりました。 次年度は、本年度培った強固な連携基盤を活かし、ICT活用による業務効率化と採用戦略の再構築を急ぎます。課題を真摯に受け止め、地域から最も信頼される施設を目指し、職員一丸となって邁進してまいります。	

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R6 実績	96.5	96.2	96.5	97.7	97.6	97.7	97.2	97.6	96.5	96.6	96.6	96.0	96.9%
	R7 目標	96.7	97.0	96.6	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	96.9%
	R7 実績	96.0	97.3	97.4	95.9	94.7	94.7	95.6	95.3	96.8	95.3	90.2	95.1	95.4%
短期	R6 実績	109.7	114.2	106.7	107.1	106.8	107.0	108.1	109.0	105.4	103.2	116.1	122.9	109.7%
	R7 目標	103.7	103.7	103.7	103.7	103.7	103.7	103.7	103.7	103.7	103.7	103.7	103.7	103.7%
	R7 実績	115.0	105.5	104.0	113.9	117.7	118.3	112.6	101.0	112.0	108.4	109.6	106.1	110.3%
通所	R6 実績	89.5	94.7	96.9	95.7	90.2	93.8	89.9	94.2	92.0	94.4	93.8	93.5	93.2%
	R7 目標	92.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	92.9%
	R7 実績	93.5	99.0	98.0	98.0	94.0	94.9	94.6	93.1	95.2	94.5	91.0	98.8	95.4%
居宅	R6 実績	113.0	119.0	122.0	121.0	91.0	90.0	84.0	91.0	88.0	87.3	82.0	85.0	97.8件
	R7 目標	94.0	97.0	101.0	103.0	107.0	109.0	112.0	114.0	117.0	119.0	122.0	124.0	109.9件
	R7 実績	102.0	102.0	107.0	123.0	122.0	134.0	129.0	127.0	137.0	134.0	133.0	142.0	124.3件

令和 7 年度 第 8 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村

しょうぶ翔裕園

令和7年度 しょうぶ翔裕園 事業報告

施設基本方針	
「即今、当処、自己」	
施設年度目標	
今を大事にして未来へ繋げていく！！職員一人ひとりが、自分のやりたいこと、やるべきこと、目指す目標を意識して今できることを精一杯に取り組む！！	
重点項目に対する実績報告	
①差別化/付加価値 ・GG式口腔ケアプログラムゴールド認定を目指し取り組み実施。結果シルバー認定となった。肺炎で2名の入院あったが、明らかに誤嚥性肺炎での入院は0件であった。 ・排泄ケアプログラムの皮膚トラブルは個人差が大きくてしまったが、コスト面は、発注回数を増やし、保管する個数・使用枚数を見直したことで、後半は大きく削減につながった。 ・特養であるがリハビリの強い施設を目指し、身体機能・生活環境面にフォーカスした。結果、前年度は骨折による入院4件から3件へと若干数ではあるが減少。 ②組織力の強化 ・ES調査「この法人で働いていることを誇りに思う」の項目41.3%→50%を目指したが、42.1%となった。 ・組織図に則った面談、交流の機会を設けES調査「部署間で交流するための機会が設けられている」の項目を32.6%→45%へと目標にし、結果41.1%と回復はしたものの、目標値には届かなかった。 ・理念研修の継続と、現場とのギャップを埋める為の取り組みを行い、ES調査「理念・ビジョンへの共感の項目1～5の平均」が47.2%→57.2%を目指したが、30.7%と非常に低い数値となってしまった。 ③採用力の強化 ・ボランティアやシルバー人材の受け入れ。ES調査にて「この法人は定年退職後も働ける環境が54.7%と低かったため、目標値を68%としたが、50.5%であった。 ・外国籍職員の雇用率UPと居場所の確立を目指し活動し、国際人財スタッフのトータル数15名となり、ほぼ全員が夜勤含めたフルシフトが可能となり、現在活躍中である。 ・若手採用の強化。学生の実習の受け入れや体験、見学等を行い、高卒1名、専門卒1名、大卒1名、計3名が2026年入職予定となった。 ④生産性の向上 ・入浴機器(個浴リフト)を導入し、現状の業務時間を導線の移動や介助に1介助あたり2分短縮し、月2時間程度短縮する。 ・AI導入・活用により、書類作成等に係る事務作業時間の短縮が可能となった。 ・生成AIにより、国際人財対応の母国語によるマニュアル作成。理解度と指導時間の短縮により、1年間で夜勤業務まで含めたフルシフトが可能となった。 ⑤収益力の向上 ・稼働率96%を達成し6,042,379円収益アップ ・協力医療機関連携加算・配置医師緊急時配置加算を目指したが、算定には至らず。 ・口腔・栄養スクリーニング加算算定、平均介護度アップ、稼働率96%以上を維持したことで、収益アップに貢献。 ⑥地域貢献 ・保育・小学校、中学校の教育機関と連携し、福祉授業・体験を展開。やりがいや興味関心を伝える場となった。 ・近隣の自治会と連携しBCP訓練実施は調整が出来ず。未実施。 ・子ども食堂から発展し、シニア食堂をオープンすることが出来た。子ども食堂は第一土曜日に開催し、年12回実施。シニア食堂は第三土曜日開催。スタートは遅れたものの年10回実施。 ・家族、地域、入居者、職員、皆が参加できるイベントとして、夏祭り、翔裕園の日等を実施。 ・介護予防教室(4・6・12・2月の年4回)、介護者の会(10月22日の年1回)、オレンジカフェの運営(9月、3月の年2回)は予定通り実施。 【全体総括】 目標であった稼働率は、特養通所共に達成。通所に関しては、予算作成時の介護度分布誤りにより、高稼働維持するも、収益達成しない結果となってしまっているが、その分介護度を意識した運営が出来たと考える。 差別化GG式は、掲げた項目に対しGOLD必達が出来ず、次年度継続目標としている。 組織力の面でも、大きく体制が変わり、ES調査の結果は過去最低のものとなったが、今年から巻き返しの年と考える。 採用面は、うまく採用に繋がらなかったことで、費用を大きく抑える結果となってしまった。国際人財雇用は達成。 収益面は、掲げた加算取得は出来なかったものの、高稼働維持により達成となった。 地域貢献は、安定して実施でき、地域に根差した施設になりつつあると評価している。 未達項目もあるが、自施設の弱い部分、管理職の難しさを確認できた1年であり、次に繋げていきたいと考える。	

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R6 実績	91.3	93.7	92.0	93.5	93.0	93.2	95.8	97.5	96.2	97.3	96.6	95.8	94.7%
	R7 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0%
	R7 実績	98.1	97.8	95.2	98.4	96.3	95.4	96.0	97.4	98.1	97.0	97.6	96.0	96.9%
通所	R6 実績	98.8	99.8	99.3	93.5	93.8	97.6	95.7	95.7	95.9	93.0	89.3	98.1	95.9%
	R7 目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0%
	R7 実績	99.7	96.8	97.0	93.5	95.0	95.7	98.9	98.5	97.0	98.3	97.0	95.0	96.9%

令和 7 年度 第 30 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村

国見ナーシングホーム翔裕園

令和7年度 国見ナーシングホーム翔裕園 事業報告

施設基本方針	
地域の護り人として共に躍進！	
施設年度目標	
・地域住民が関わりあえる場を創出する事で、地域全体の活性化を図る。 ・クレドの理解と実践を深化し、多様な視点と経験を融合し、誰もが活躍できるチームを創る。	
重点項目に対する実績報告	
①差別化/付加価値	
・排泄委員会にて利用者に適した排泄用品を選定し、統一した排泄ケアを実施した。また、布パンツやトイレ使用への移行を進め、自立支援に繋げた。さらに、使用量データをもとにコスト削減にも取り組んだ。 ・認知症ケアロールプレイング研修を毎月実施した。東北Bの国際人財を対象に、理解しやすい表現で指導を行い、認知症ケアの基本的な考え方や対応方法への理解を深めた。 ・ノーリフティングCPでは、2年連続でゴールド認定を取得した。次年度は、国際人財への浸透と他事業所・地域への発信に取り組みたい。 ・在宅サービス利用者家族へのサービス理解促進とニーズ把握を目的に、年4回家族会を開催した。リハビリや食事体験会、予防教室、福祉用具の説明・体験会等を実施し、アンケートでは9割を超える満足度を得た。年間を通して家族との関わりを深めることができ、次年度も継続して取り組むたい。	
②組織力の強化	
・国見NHから国見あおばへ職員1名が異動した。ジョブローテーションにより、施設間の連携強化とケア方法の共有に繋がった。 ・特定技能職員の育成と安心して働ける環境づくりのため、メンターと指導者が3か月ごとに面談を実施した。業務目標を全職員で共有し、達成に向けた支援体制を整えるとともに、日々の業務内で日本語指導を行い、効率的な学習に繋がった。	
③採用力の強化	
・施設の魅力発信のため、イベントやアクティビティに加え、職員の研修風景や業務の様子をInstagramに投稿した。内容の充実により、フォロワー数と閲覧数が増加した。今後も魅力発信ツールとして活用していく。 ・カイテック利用者1名を採用した。今後も働きやすい環境づくりを進め、希望者には採用に向けた声がけを行う。	
④生産性の向上	
・日勤帯の業務を一部夜勤帯へ移行したことで、利用者と関わる時間を確保し、意向やニーズに沿ったケアを提供できた。 ・外国籍職員が全業務を担えるよう育成に注力した結果、国際人財6名全員が離職することなく夜勤勤務に従事できている。□	
⑤収益力の向上	
・老健(SS)…年間平均稼働率96%で目標達成。加算も予定どおり取得し、年度末には次年度の期中改定準備まで進めた。往復利用者は実14名、延べ34名となり、「くにもつながりながら安心して生活できる支援」が中核機能として定着した。 ・訪問リハビリ…年間平均稼働率80.3%で目標未達。中途職員への業務指導が進み、12月からは相談受付や実態調査契約まで行う事が出来る様になり以降の平均稼働率95.3%で推移した。次年度も稼働目標達成とケアプラン達成に向けた高水準のサービス提供を行っていく。 ・居宅…R7年度は元気ケアプランニングセンター仙台として船出。着実に新規利用者を獲得しながら、老健、通所、単独ショート、看多機へ利用者を紹介することで、各事業の稼働率の向上に繋げる事が出来た。収益においては前年度比+650万となったものの、特定事業所加算の算定要件が整わず未算定となり、予算未達の要因となった。 ・通所リハビリ…年間平均稼働率80.7%で目標未達。毎月新規6名獲得は出来ていたが、入院やご逝去される方が多く目標達成に至らなかった。対策としては振替・スポット利用の定着、イベント等を増やし休みたくないデイケアとして行動した。	
⑥地域貢献	
年間51回の地域活動に取り組むことができた。小学校や障害施設など、連携の範囲も広がり、新たな地域との繋がりを得ることができた。これまで接点の少なかった地域資源や関係機関との交流を重ねることで、当施設の役割や取り組みを知っていただく機会が増え、地域内での認知度向上と関係性の構築に繋がった。 また、継続的な関わりを通じて、今後の協働や地域課題への対応に向けた基盤づくりを進めることができた1年となった。	
【全体総括】	
目標達成に向けて着実に歩を進めることができた。国際人財が誰一人欠けることなく各々が目標を持って成長し、確実に戦力としてチームの役割を担っている。地域の“護り人”として、くにも翔裕園が包括的に関わるケースが増え、困難ケースもその状態に応じ、横断的に適切な事業を提案し、ご利用いただくことができた。事業所間連携が定着し、その中心に元気CPC仙台が采配を振るうことができてきている。地域貢献活動、家族会開催等、地域とともに歩む施設として、くにもエリア50年構想の長期的な地域課題を見据え、地域の中での基盤を強固にした一年となった。	

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
老健	R6 実績	93.5	93.4	89.9	96.2	92.1	91.9	91.7	89.1	90.6	96.4	95.9	97.1	93.2%
	R7 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0%
	R7 実績	96.0	96.0	97.3	96.8	95.9	94.0	95.7	95.2	95.8	96.7	95.6	97.2	96.0%
通所	R6 実績	77.5	77.3	80.3	80.8	81.6	82.2	83.7	84.9	79.6	75.7	75.3	76.3	79.6%
	R7 目標	82.4	83.6	85.8	87.1	88.1	90.1	90.8	91.6	87.8	87.8	87.8	87.8	87.6%
	R7 実績	78.9	85.2	84.1	84.1	79.4	82.6	80.3	73.2	79.9	78.5	81.6	83.7	81.0%
訪リハ	R6 実績	206.0	232.0	218.0	234.0	206.0	190.0	188.0	172.0	170.0	150.0	140.0	178.0	190.3件
	R7 目標	224	224	214	234	214	224	234	240	204	204	204	224	220.3件
	R7 実績	176	174	178	202	192	196	216	164	244	224	232	252	204.2件
居宅	R6 実績	56.7	58.2	62.5	64.2	60.1	63.1	64.9	73.7	75.9	80.1	80.1	90.1	69.1件
	R7 目標	92	97.3	102.6	108	116	121.3	124.3	127.3	130.3	133.3	136.3	139.3	119.0件
	R7 実績	91.6	91.9	102.7	104.7	103	99.6	104.5	110.5	111.7	105.6	112.7	109.6	104.0件

令和 7 年度 第 21 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村
仙台市亀岡老人福祉センター

事業報告

施設基本方針

介護予防から健康増進へ！

スローガン”より元気に！より楽しく！より朗らかに！ Well Being!

施設年度目標

- ①利用者の拡大 16,300名/年(令和6年度対比6.5%増)
- ②前期高齢者比率の向上 74歳以下比率を24.5%(現行23.3%の105%)
- ③趣味の教室、愛好会等受講生間交流促進:教室・愛好会の枠を超えた利用者同士ともに生きる仲間意識の醸成
- ④次期指定管理者(第6期)受託

重点項目に対する実績報告

①差別化/付加価値

- ・毎月開催の「誕生会」を基幹事業と位置づけして、他の老人福祉センターとの差別化を拡大します
 - ☞年間実績として、誕生会参加者829名は昨年667名の124%
 - ☞年間総利用者数は18,412名：昨年実績15,539名の118%、目標16,300名対比113%
 - ☞利用者の若返り：前期高齢者の割合は実績で20.2%でした
- 要因としては、定年の延長、国の施策（高齢でも働いてもらう）、健康寿命の延伸が勤労意欲を高めていることなど。

②組織力の強化

- ・①の目標達成の組織作り：毎日始業時の業務予定の情報共有と協力体制・助言・指示を継続
- ⇒現業業務員業務から送迎業務を分離し、計画業務への時間集中を可能化しました
- ・毎日昼会で前日の問題・気づき・感動などの情報交換、また、感動介護憲章・職員クレドの全員唱和も継続実施
- ・昼会を15:55に移動し、当日の問題等の情報共有と明日への布石としました。

③採用力の強化

- ・“採用力”＝“辞めようと思わない職場”としての要件を充実します。現時点での離職者は皆無。
- ・有給休暇50%取得、3～4連続休暇の付与、仕事に厳しく職員にやさしい職場を意識して構築しました。
有給休暇は8割取得できています

④生産性の向上

- ・センターサービスの向上の鍵である業務作業の効率化を図ります
 - ⇒業務作業手順書を再作成し、作業効率を10%改善しました
 - ⇒送迎サービスの申込制を廃止し、事務作業は大幅に軽くなりました。(R7年11月スタート)

⑤収益力の向上

- ・上記②～④の成果を拡大し、得られた収益を利用者サービス・利便性に投入します
 今年度は指定管理20年にあたり、センターまつり、誕生会に還元しました。(賞品や参加賞を増大)

⑥地域貢献

- ☞ 地域夏祭り(8月16日開催納涼盆踊り)への食材協力と参加
 - ☞ 夏の“涼みどころ”(簡易クーリングシェルター)を玄関に設置し、熱中症対策を取りました。
 - ☞ 元気ケアプランニングセンター仙台と連携し、介護なんでも相談会を月1回定期開催(誕生日開催日)しました。
- 元気村施設のPRと施設利用には多少は貢献できています。

【全体総括】

- ☞ 仙台市の方針として、2年後の令和10年3月末で現地ででの運営は終了となります。仙台市主催の利用者説明会への対応など慌ただしい一年でした。今後も、スムーズに新しい活動場所へ移行できるよう仙台市を協力して行きます。
- ☞ 運営終了に關しての利用者説明会で、亀岡老人福祉センター運営への利用者の評価が非常に大きいことがわかり、そのことが元氣村への評価が高いことに繋がったことは、私どもの喜びです。
- ☞ 運動系の講座を2講座新規開設(美姿勢元氣体操、シニアディスコ倶楽部)したことや、誕生会を重点事業として、利用者およびセンターで活動している団体を巻き込んだイベントにした事が、利用者の大幅な拡大に役立ちました。
- 次年度も利用者ニーズに沿った事業の開拓に努めます。

年間数値目標と実績(利用率)※以下は該当項目がありませんので、無記入です

[illegible]

令和 7 年度 第 10 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村

国見あおば翔裕園

令和7年度 国見あおば翔裕園 事業報告

施設基本方針

地域の護り人として共に躍進！

施設年度目標

- ・地域住民が関わりあえる場を創出する事で、地域全体の活性化を図る。
- ・クレドの理解と実践を深化し、多様な視点と経験を融合し、誰もが活躍できるチームを創る。

重点項目に対する実績報告

①差別化/付加価値

- ・排泄委員会にて利用者に適した排泄用品を選定し、統一した排泄ケアを実施した。また、布パンツやトイレ使用への移行を進め、自立支援に繋がった。さらに、使用量データをもとにコスト削減にも取り組んだ。
- ・認知症ケアロールプレイング研修を毎月実施した。東北Bの国際人財を対象に、理解しやすい表現で指導を行い、認知症ケアの基本的な考え方や対応方法への理解を深めた。
- ・ノーリフティングCPでは、2年連続でゴールド認定を取得した。次年度は、国際人財への浸透と他事業所・地域への発信に取り組みきたい。
- ・在宅サービス利用者家族へのサービス理解促進とニーズ把握を目的に、年4回家族会を開催した。リハビリや食事体験会、予防教室、福祉用具の説明・体験会等を実施し、アンケートでは9割を超える満足度を得た。年間を通して家族との関わりを深めることができ、次年度も継続して取り組みたい。

②組織力の強化

- ・国児NHから国児あおばへ職員1名が異動した。ジョブローテーションにより、施設間の連携強化とケア方法の共有に繋がった。
- ・特定技能職員の育成と安心して働ける環境づくりのため、メンターと指導者が3か月ごとに面談を実施した。業務目標を全職員で共有し、達成に向けた支援体制を整えるとともに、日々の業務内で日本語指導を行い、効率的な学習に繋がった。

③採用力の強化

- ・施設の魅力発信の為、施設のイベントやアクティビティに留まらず、職員の研修風景や仕事の様子もinstagramにて投稿した。投稿回数を週3回に増やし、内容の充実を図ることで、フォロワーも増加し閲覧数も倍以上になった。今後も魅力発信のツールとして活用していく。
- ・カイト利用者1名採用。今後もカイト勤務者が働きやすい環境をつくり、希望者には採用に向けて声がけを行う。

④生産性の向上

- ・日勤帯の業務を一部夜勤帯へ移行したことで、利用者と関わる時間を確保し、意向やニーズに沿ったケアを提供できた。
- ・外国籍職員が全業務を担えるよう育成に注力した結果、国際人材6名全員が離職することなく夜勤勤務に従事できている。□

⑤収益力の向上

- ・老健(SS)…年間平均稼働率96%で目標達成。加算も予定どおり取得し、年度末には次年度の期中改定準備まで進めた。往復利用者は実14名、延べ34名となり、「くにもつながりながら安心して生活できる支援」が中核機能として定着した。
- ・訪問リハビリ…年間平均稼働率80.3%で目標未達。中途職員への業務指導が進み、12月からは相談受付や実態調査契約まで行う事が出来る様になり以降の平均稼働率95.3%で推移した。次年度も稼働目標達成とケアプラン達成に向けた高水準のサービス提供を行っていく
- ・居宅…R7年度は元氣ケアプランニングセンター台仙として始出。着実に新規利用者を獲得しながら、老健、通所、単独ショート、看多機へ利用者を紹介することで、各事業の稼働率の向上に繋げる事が出来た。収益においては前年度比+650万となったものの、特定事業所加算の算定要件が整わず未算定となり、予算未達の要因となった。
- ・通所リハビリ…年間平均稼働率80.7%で目標未達。毎月新規6名獲得は出来ていたが、入院やご逝去される方が多く目標達成に至らなかった。対策としては振替・スポット利用の定着、イベント等を増やし休みたくないデイケアとして行動した。

⑥地域貢献

年間51回の地域活動に取り組むことができた。小学校や障害施設など、連携の範囲も広がり、新たな地域との繋がりを得ることができた。これまで接点の少なかった地域資源や関係機関との交流を重ねることで、当施設の役割や取り組みを知っていただく機会が増え、地域内での認知度向上と関係性の構築に繋がった。

また、継続的な関わりを通じて、今後の協働や地域課題への対応に向けた基盤づくりを進めることができた1年となった。

【全体総括】

目標達成に向けて着実に歩を進めることができた。国際人財が誰一人欠けることなく各々が目標を持って成長し、確実に戦力としてチームの役割を担っている。地域の“護り人”として、くにみ翔裕園が包括的に関わるケースが増え、困難ケースもその状態に応じ、横断的に適切な事業を提案し、ご利用いただくことができた。事業所間連携が定着し、その中心に元気OPC仙台が采配を振るうことができてきている。地域貢献活動、家族会開催等、地域とともに歩む施設として、くにみエリア50年構想の長期的な地域課題を見据え、地域の中での基盤を強固にした一年となった。

年間数値目標と実績(利用率)

[illegible]

令和 7 年度 第 22 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村
南方ナーシングホーム翔裕園
南方グループホーム翔裕園

令和7年度 南方ナーシングホーム翔裕園 事業報告

施設基本方針

「感謝と挑戦」
～地域との共生、活性化、未来に向けて深化～

施設年度目標

- ①稼働率安定と強化型維持で収益達成率100%、経常達成率100%
- ②現場力向上と未来を築く次世代リーダー育成・人材確保
- ③介護分野から飛び越えた地域との関わり(町おこし)

重点項目に対する実績報告

①差別化/付加価値

【行政区との活性化事業の「地域おこし協力隊」】

・行政区長、民生委員、児童委員を含めた地域住民との定例会議を発足。
会議内容としては 合同行事の実施、地域行事の復活、場の提供、活性化のためのアイデア、お互いのニーズの吸い上げ、解決に向けた話し合い、空き家の活用方法などを検討。合同行事の開催として、パークゴルフ大会を6月9月11月に実施している。

【オレンジカフェの開催の継続、質の向上】

→登米市職員(管理栄養士/保健師/社会福祉士)との繋がりを確立、オレンジカフェにおける講師の依頼や日頃の認知症施策に関する情報交換を盛んに行うことができた。

【季節に合わせた食事・行事食を企画・実施する】(老健栄養)

・企画献立として毎月ご当地献立を実施。また東北B栄養士部会で各施設季節ごとの薬膳献立企画・提供実施。給食委員会と連携し企画献立実施し利用者に楽しんでもらうことができた。クレープ・クリスマスケーキ作り、屋台ラーメン、屋台お好み焼きなどを実施している。

②組織力の強化

【人材育成と理念の浸透、定着】(ES調査に基づいた体制の継続)

・定期面談、1on1MTG、リーダーMTGにて、育成指導行っている。
・グループ内研修、各種外部研修や内部研修の開催・参加にて、新しい知識の習得や自身の業務の振り返り等行いスキルアップにつなげることができた。

③採用力の強化

【近隣福祉系高校高校との連携】【セラピスト養成校実習生受け入れ】

・登米総合産業高校 3年生4名 2年生4名 福祉教員研修1名 迫桜高校 3年生2名 女川支援学校3年生1名 迫支援学校3年生1名の受け入れを実施。・学生アルバイトを登米総合産業高校より3年生1名採用。・仙台医健専門学校 8.25～10.3で1名の受け入れ実施。

④生産性の向上

【介護ロボット/ICTの導入】

・会議の議事録の効率化として、AI議事録の導入を行い時間短縮、負担軽減を図っている。
・見守りセンサー増大による、身体的、精神的負担の軽減、体重測定簡素化で生産性向上を図っている。
・情報収集として、5/21CareTEX仙台25に参加。

⑤収益力の向上

【老健稼働率の安定(稼働率目標95%)】

・稼働率89.5%、目標95%に対し-5.5%と目標未達。入所者112名、退所者111名(在宅32名、入院56名、他施設9名、逝去14名)
次年度もSS受け入れの拡大継続と夏場の「避暑入所」営業を実施し、稼働向上を目指していく。

【在宅強化型の継続算定】(老健)

・R7年度在宅復帰者32名。月2回のMTGで数値管理の徹底、ベッドコントロールにより在宅強化型算定継続。(年間7か月超強化型算定)

【営業推進、強化、地域へのアプローチ】(老健)

・対面営業目標を140件として営業強化。年間問合せ193件。成約126件。成約率65.3%。
・地域住民、利用者、家族参加型交流会(奇数月)の開催で施設PRを実施。食事、アクティビティ体験、リハビリ体験などを実施。

【デイケア稼働率の安定(稼働率90%)】

・年間稼働率90.7%となり目標達成している。居宅事業所には対面営業実施し38件の新規獲得している。
・低迷時期、曜日に対して、イベントの企画などを実施し集客を行っている。

⑥地域貢献

・配色サービスマンボランティアの継続。地域マラソン大会へボランティア、地域夏祭り神輿担ぎ手として参加。
・地区会議へ参加し、施設への要望吸い上げを行い、地区行事への参加。
・オレンジカフェや交流会を毎月開催。外部講師を招いての研修、認知症サポーター養成講座の独自開催をした。

【全体総括】

入所稼働率目標95.0%に対し89.5%と5.5%未達であったため、収益達成率95.8%、経常達成率71.03%で予算未達となりました。営業目標件数140件/月として取り組み、年間平均134件/月と100件を超える営業を行い、年間問合せ193件、新規成約126件(成約率65.3%、月平均10.5件)となりましたが、入院や逝去による退所も多く稼働率の向上に繋がられませんでした。特に6月～10月にかけて稼働率低迷したため、次年度は夏場の「避暑入所」営業や今年度から実施しているSSご利用者への特別企画営業継続にて、在宅からの受け入れを強化していく事で入院退所の抑制も図り、稼働率向上を図っていきます。地域貢献活動としても、オレンジカフェ・地域行事参加の定着や今年度隔月開催の南方地区住民との交流会等、南方翔裕園を知って頂く機会により地域に根付いた施設として定着してきています。次年度も引き続き地域に必要とされる活動を通して施設PRにも繋げ、地域で一番魅力のある施設となるよう、職員一丸で取り組んでいきます。

年間数値目標と実績 (利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
老健	R6 実績	84.8	82.5	80.0	82.3	87.2	91.0	87.6	89.6	93.3	92.7	85.9	90.0	87.2%
	R7 目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0%
	R7 実績	90.9	91.1	86.7	86.5	84.8	84.1	85.6	91.8	92.6	94.2	93.6	91.5	89.5%
通所	R6 実績	86.4	86.4	86.4	86.3	85.5	86.0	87.5	88.1	89.6	81.4	89.7	89.1	86.9%
	R7 目標	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0%
	R7 実績	90.0	94.8	92.4	90.4	86.0	91.7	92.5	90.9	91.3	88.8	89.3	90.1	90.7%
訪リハ	R6 実績	10	10	10	11	11	11	13	13	14	13	13	13	11.8件
	R7 目標	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14.0件
	R7 実績	12	12	12	13	13	14	14	16	15	15	16	17	14.1件
居宅	R6 実績	90	96	74	63	64	60	60	65	61	62	65	66	68.8件
	R7 目標	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	70.5件
	R7 実績	67	67	64	0	0	0	0	0	3	3	3	2	17.4件
グループホーム	R6 実績	100.0	100.0	100.0	95.9	100.0	100.0	96.8	88.5	94.1	98.6	100.0	100.0	97.8%
	R7 目標	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0%
	R7 実績	100.0	97.5	98.1	94.4	93.5	94.4	95.5	98.7	95.2	100.0	99.6	100.0	97.2%

令和 7 年度 第 18 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村

ケアホテルすみさん家

令和7年度 ケアホテルすみさん家 事業報告

施設基本方針	
高齢地域を活性化するため、必要とされる集団、元気な施設に改革する1年とします。	
施設年度目標	
1. 地域のイベントに積極的参加で、施設をアピール、情報交換を図り、頼られる施設を目指します。 2. 職員間の交流を定期的に行い、働きやすい職場づくり、リーダー職員増の育成を目指します。	
重点項目に対する実績報告	
①差別化/付加価値 両施設職員参加の全体会議、研修については、月1回実施を予定しておりましたが、実施できない月もありました。行事やイベントの開催前等は職員の意見を聞いたり、各種事項の確認等行いました。会議への参加については、シフトの関係等により、なかなか皆さんが集まること出来ませんでした。施設内環境整備については、担当職員を中心に取り組み、各所改善を勧めました。感染症発生の時期もあったことから、施設内清掃・消毒には特に力を入れて取り組みました。	
②組織力の強化 2カ月に1回、食事会を実施し交流を図ることにしていましたが、日程を決めることが出来ず、4月・8月・12月の年3回の実施となっていました。交流を深める良い機会となりました。職員との打ち合わせ、面接については、随時実施することが出来ました。	
③採用力の強化 介護職員3名の異動、2名の退職、4名の採用、訪問介護員1名の退職、看護師1名の退職、相談員は1名採用したものの退職、調理員2名、栄養士1名の退職がありました。ハローワークへ両施設の求人を出し、情報J収集しながら採用に向けて取り組んでおります。	
④生産性の向上 一体化の営業体制を進め、厨房一体化(仕入れ・業務の統一)については、調理員の退職もあり、佐藤係長もヘルプに入りながらシフト調整して取り組んでおります。仕入れについては、クックパックの導入により一体的に行っております。	
⑤収益力の向上 営業について、事業所訪問、半径20k以内ではなく片道1時間をめどに訪問し、合計50件を超えて訪問営業を行いました。春フェスタ、夏祭り、翔裕園の日と大きな行事・イベントに合わせて折込チラシを作成し、配布いたしました。たかのす翔裕園の食事価格改定については、4月29日の運営懇談会にて図り、一人200円/1日を値上げ、収益増を図りました。	
⑥地域貢献 地元自治会、取引金融機関の会議等には施設長、課長が参加し、情報交換等を行うことが出来ました。施設行事・イベントにつきましては、東北ブロック、支援本部様の協力を得ながら開催し、予想以上の集客があり、皆様に喜んで頂きました。	
【全体総括】 7年度は、たかのす翔裕園との一体化事業2年目として、収益挽回に取組み、下半期は稼働率、95.7%まで回復も収益73,216千円実績、目標比-5,365千円となる。経常は、-2,869千円実績、毎月、入退所が有、また大雪の影響で、除雪費用、修繕費用負担となったことも要因。 8年度、4、5月ハローワークよりの職員採用4名できた事と外国人財2名6月採用となり、好スタート見込でおります。満床継続、待機者確保に努め、取り組んでまいります。	

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
短期	R6 実績	96.2	94.5	82.0	89.7	90.5	91.3	83.5	89.0	91.6	84.7	95.9	98.5	90.6%
	R7 目標	97.5	97.5	97.5	97.5	98.0	98.0	98.0	98.0	98.5	98.5	98.5	98.5	98.0%
	R7 実績	98.0	84.0	82.2	86.8	90.8	95.0	95.5	97.2	88.4	96.4	97.7	99.2	92.6%

令和 7 年度 第 12 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1日
至 令和 8 年 3 月 31日



社会福祉法人元気村

たかのす翔裕園

令和7年度 たかのす翔裕園 事業報告

施設基本方針	
高齢地域を活性化するため、必要とされる集団、元気な施設に改革する1年とします。	
施設年度目標	
1. 地域のイベントに積極的参加で、施設をアピール、情報交換を図り、頼られる施設を目指します。 2. 職員間の交流を定期的に行い、働きやすい職場づくり、リーダー職員増の育成を目指します。	
重点項目に対する実績報告	
①差別化/付加価値 両施設職員参加の全体会議、研修については、月1回実施を予定しておりましたが、実施できない月もありました。行事やイベントの開催前等は職員の意見を聞いたり、各種事項の確認等行いました。会議への参加については、シフトの関係等により、なかなか皆さんが集まる事が出来ませんでした。施設内環境整備については、担当職員を中心に取り組み、各所改善を勧めました。感染症発生の時期もあったことから、施設内清掃・消毒には特に力を入れて取り組みました。	
②組織力の強化 2か月に1回、食事会を実施し交流を図ることにしていましたが、日程を決めることが出来ず、4月・8月・12月の年3回の実施となつてしまいましたが、交流を深める良い機会となりました。職員との打ち合わせ、面接については、随時実施することが出来ました。	
③採用力の強化 介護職員3名の異動、2名の退職、4名の採用、訪問介護員1名の退職、看護師1名の退職、相談員は1名採用したものの退職、調理員2名、栄養士1名の退職がありました。ハローワークへ両施設の求人を出し、情報J収集しながら採用に向けて取り組んでおります。	
④生産性の向上 一体化の営業体制を進め、厨房一体化(仕入れ・業務の統一)については、調理員の退職もあり、佐藤係長もヘルプに入りながらシフト調整して取り組んでおります。仕入れについては、クックバックの導入により一体的に行っております。	
⑤収益力の向上 営業について、事業所訪問、半径20k以内ではなく片道1時間をめどに訪問し、合計50件を超えて訪問営業を行いました。春フェスタ、夏祭り、翔裕園の日と大きな行事・イベントに合わせて折込チラシを作成し、配布いたしました。たかのす翔裕園の食事価格改定については、4月29日の運営懇談会にて図り、一人200円/1日を値上げ、収益増を図りました。	
⑥地域貢献 地元自治会、取引金融機関の会議等には施設長、課長が参加し、情報交換等を行うことが出来ました。施設行事・イベントにつきましては、東北ブロック、支援本部様の協力を得ながら開催し、予想以上の集客があり、皆様に喜んで頂きました。	
【全体総括】 7年度は、すみさん家との一体化事業2年目として、収益挽回に取組み、下半期は稼働率、97%まで回復も、収益は73,861千円実績、目標比-3,791千円となる。経常は、443千円実績、大雪の影響で、除雪費用等負担となったことが大きな要因。 8年度、4月ハローワークよりの職員採用ができ、また、営業の成果から、入居情報も多くあり、好スタート見込です。満床継続、待機者の常時確保に努め、取り組んでまいります。	

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
有料	R6 実績	84.0	81.0	82.1	78.9	71.4	71.4	69.7	70.1	76.6	71.6	80.1	76.6	76.1%
	R7 目標	83.0	87.0	91.0	92.0	93.0	94.0	95.0	96.0	96.5	96.0	96.0	96.5	93.0%
	R7 実績	73.2	70.5	76.2	75.0	82.1	96.4	96.4	92.9	100.0	96.4	96.4	100.0	88.0%
訪問	R6 実績	89.4	74.4	75.8	71.6	66.7	66.3	61.7	63.1	64.0	69.8	73.5	70.6	70.6件
	R7 目標	720.0	762.0	765.0	790.0	800.0	774.0	818.0	792.0	837.0	837.0	748.0	846.0	790.8件
	R7 実績	615.0	612.0	640.0	1,031.0	1,091.0	1,298.0	1,182.0	1,202.0	1,333.0	1,331.0	1,220.0	1,233.0	1065.7件

令和 7 年度 第 11 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村

くまもと龍田翔裕園

令和7年度 くまもと龍田翔裕園 事業報告

施設基本方針	
人員の安定を図る	
施設年度目標	
スタッフの健康管理、感染予防に努め安定した運営ができる	
重点項目に対する実績報告	
①差別化/付加価値 グループ内のイベントへの参加、合同でのイベントの実施ができ横のつながりが強くなった。 施設内イベントでは報告書、新聞、SNSを使い発信することができた。見学前にはSNS見てきましたなど、声をかけてもらうこともふえてきた。今年も引き続きいい情報発信していきます。	
②組織力の強化 主任とのミーティングは密に行え、そこから現場への発信という形が定着し現場の声も拾え、意見を反映しやすくなった。主任が男性のため、女性の声、国際人材の声をもっと聴きとるためにサブリーダーを新たに女性でたてました。このことにより話しにくいことは女性同士で聞いてよりよくしていくことに力をいれています。これは今年度も力をいれていき働きやすい職場づくりに努めます。	
③採用力の強化 7年度の介護、看護の離職は1人でした。1年動きがなかったため求人は出していませんでしたが、全員人事の周知は定期的に行えています。その結果、2月の採用時は全員人事で補うことができました。その一方で厨房の採用は進まず求人を出しても応募がない状態。来ても70歳越えでなかなか定着にはならず課題。 昨年度の全員人事での採用は3件。一緒に働きたいと思える職場づくりに今後も努めていきます。	
④生産性の向上 荷物チェックアプリや記録ソフトは定着したものの、送迎表や部屋割り表に関しては費用面で合わずなかなか進まない。エクセルでは重くてうまく起動せず、現在AIアプリにて再検討中。 今年度に部屋割りソフトの導入とインカム導入を行う。	
⑤収益力の向上 エアコンフィルターの導入により大きな感染の広がりはなく受け入れ制限もかけることなく運営することができた。 営業の強化では定期的に空き情報を流すことができた。新規居宅への営業に力をいれました。対面営業を実施することで6件の新規居宅との取引が始まり、定期利用へとつながりました。 居宅は新規目標3件に対して3.6件/月目標達成するも支援の割合が多く収益目標に届かなかった。この1年は相談会を開催し、知ってもらうことに力をいれました。これは今年度も引き続き実施していきます。	
⑥地域貢献 施設内イベントを地域家族参加型にしていくことを目標に7年度は新たな取り組みとしまして、イルミネーション点灯式を行うことができ、近隣の方もたのしんでいただきました。これをきっかけに季節の飾りを楽しみに散歩される方が増えてきた。今後も地域の方とのコミュニケーションの場として活動していきます。	
【全体総括】 ショートは平均稼働94.2%で目標を達成、前年度より2.7%上回る結果となりました。年度末に人の動きがあったものの介護現場では体調不安による1名の退職者のみで安定した1年でした。感染も離職もおさえることができ、営業を止めずに稼働したことが前年度よりも伸びた要因です。 居宅は開設2年目。1年目同様包括や連携室への営業は必ず行い、7年度はイベント時に相談会の窓口を開設しました。目標3件/月に対して3.6件/月支援が多くを占めてしまいましたが新規件数は目標達成しております。今後は加算の算定とイベント時居宅主催の介護教室を実施しながら近隣へアピールしていきます。	

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
短期	R6 実績	91.2	92.9	93.4	88.3	96.5	94.7	88.7	99.3	95.1	87.4	83.6	87.0	91.5%
	R7 目標	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0%
	R7 実績	90.0	96.0	95.4	87.1	96.0	101.0	98.9	97.2	92.0	89.0	97.0	91.0	94.2%
居宅	R6 実績	0.0	0.0	0.0	3.0	22.0	24.0	25.0	24.0	30.0	32.0	34.0	38.0	19.3件
	R7 目標	40.0	43.0	46.0	49.0	52.0	55.0	58.0	61.0	64.0	67.0	70.0	73.0	56.5件
	R7 実績	33.0	34.0	40.3	40.3	41.3	45.6	46.6	52.6	57.6	55.6	56.3	59.6	46.9件

令和 7 年度 第 9 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村

西原ケアタウン元気村

令和7年度 西原ケアタウン元気村 事業報告

施設基本方針	
地域に愛され、選ばれる施設へ - 安心・やりがい・楽しさをすべての人に	
施設年度目標	
①入収益の安定化と黒字化 ②働きやすさと組織力の向上 ③施設のブランド力向上	
重点項目に対する実績報告	
①差別化/付加価値 西原村で最も魅力ある施設を目指し、環境整備とサービス提供。外出・外食・ボランティア受入を毎月実施し、地域との交流機会を創出。SNSやホームページを活用し、小中学生のクラブや地域団体と連携を拡大し、人から人へつながる関係性を構築した。活動予告を毎月ポスター掲示し、ご利用者・家族・ケアマネへ可視化。食イベントは月2回実施し、周年祭や敬老会等の家族参加型イベントも年間5回開催した。また、保育園時のイベント参加を初めて実施し交流促進。地域一体の取り組みとして定着を図っていく。「食・創作・外出」の週次活動を通じ、翔裕園ならではの付加価値向上に努めた。	
②組織力の強化 通所・訪問各部門で定期会議とポスト会議を実施し、課題共有と改善の実行を推進。デイ職員への方針共有と進捗確認を強化し、訪問介護の介護保険主体への移行によりサービス件数の増加につなげた。兼務職員の配置により相互理解を進めるとともに、特定技能人材2名の育成・定着支援(免許取得、研修等)を行い組織基盤を強化。ES調査は関係性20.8%から38.6%へ改善も目標未達。一方、DXや情報共有ツール導入の遅れにより生産性向上には限定的であり、今後の課題とする。	
③採用力の強化 年間採用実績は9名(常勤2名・非常勤7名)。管理職候補1名(紹介会社)、フルシフト常勤1名、早番パート3名、夜勤専従3名、デイ看護師パート1名と、職種・時間帯を明確にした採用を実施。賃金は地域相場を踏まえ調整し、夜勤専従は熊本市内でも上位水準に設定。採用チャネルはカイク2名、ハローワーク2名、直接応募3名、スカウト1名、紹介会社1名と多様化し、年度内の必要人員確保を達成した。一方で離職率は25.8%と高く、働きやすさ改善が課題。新卒採用は未実施、R8年度の重点課題。	
④生産性の向上 自動シフト作成の導入を試行し有効性は確認したが、ダブルワーク職員の時期ずれや途中変更が多く、手動対応が残るため効率化が限定的。ソフトの再検討中。清掃ロボットは導入したが費用対効果が合わず見送り。アナログ面では業務マニュアルを整備し、新人教育用に業務スケジュールを再構築。配薬や離床介助等の業務フローを整理・明文化し、随時更新を行った。食事提供は大皿方式から弁当箱方式へ変更し、厨房での盛付完結により介護職員の負担軽減を実現した。DX、IOT活用による向上インカム等の機器導入はR8年度に実施予定とする。	
⑤収益力の向上 目標対比、収益103.9%、経常増減は504%。訪問介護収益121%、経常利益2012%。サービス見直し、件数増加が収益を大きく牽引。Ⅱ号館については年度目標未達だが3月稼働率97.3%に改善。満床稼働を3か月維持し運営体制の安定が達成要因。営業面では、居宅および病院からの紹介が平均3件/月、直接問い合わせが1.5件/月と一定の流入を確保。インスタグラムの継続発信や平均57件の営業活動を実施し、目標件数には届かなかったものの、継続的な関係構築により安定した紹介につながる基盤を形成した。介護保険利用率は82%と前年同率ながら利用者母数が増加し、結果として収益拡大に寄与した。一方で、デイサービスの外部利用者獲得は年間1名にとどまり目標未達。通所サービスの魅力発信や営業手法の見直しが必要である。引き続き、地域への浸透と外部利用の拡大を最重要課題として取り組んでいく。	
⑥地域貢献 西原村広報を通じボランティア募集。娯楽用品の寄贈が複数あり、趣味活動ボランティアを1名獲得。西原村主催の地域祭りへ初参加出店により地域交流と施設認知の向上に寄与。地域参加型イベントは年3回開催し、保育園や小中学校、ダンススタジオと連携した多世代交流を実施。また健康講座を3回開催したが参加者は延べ10名	
【全体総括】 黒字化を最重要課題として取り組み、目標達成。営業による対面での関係構築、インスタグラム、「みんなの介護」等の写真掲載見直しやイベントごとの継続発信により魅力を発信。これまで接点のなかった層への周知にもつながったことで、入所稼働向上、安定し運営基盤の確立につながった。一方、収益確保と並行して進めるべき組織力強化、生産性向上、職員満足度向上の取り組みは課題。R8年度は働きやすさの向上、定着・育成の強化を軸に組織基盤を整え、持続的な成長につなげる。	

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
サ高住	R6 実績	90.0	94.0	98.0	96.0	96.0	94.0	90.0	91.2	93.2	93.0	93.4	91.2	93.3%
	R7 目標	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0%
	R7 実績	93.9	94.7	94.5	92.3	90.1	92.6	96.0	93.8	94.1	93.6	91.0	90.9	93.1%
住宅型有料	R6 実績	0.0	0.0	0.8	20.0	33.0	35.0	35.0	49.8	57.6	55.2	55.0	50.0	32.6%
	R7 目標	60.0	70.0	80.0	90.0	90.0	90.0	92.5	92.5	92.5	92.5	92.5	92.5	86.3%
	R7 実績	57.8	70.0	75.7	78.2	84.4	80.0	78.9	81.3	90.2	96.3	94.3	97.3	82.0%
通所	R6 実績	79.6	80.6	83.4	83.0	74.8	70.1	71.6	69.6	53.1	69.9	72.0	73.0	73.4%
	R7 目標	73.3	75.0	76.7	78.3	80.0	81.7	83.3	85.0	86.7	88.3	90.0	90.0	82.4%
	R7 実績	81.4	87.0	87.3	89.1	89.9	92.3	92.2	92.4	95.1	93.3	95.1	92.8	90.7%
訪問介護	R6 実績	1,040	1,113	1,337	1,291	1,397	1,507	1,538	1,678	1,813	1,798	1,706	1,900	1509.8件
	R7 目標	1,850	1,900	1,950	2,000	2,050	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	2037.5件
	R7 実績	2,028	2,181	2,162	2,352	2,318	2,308	2,327	2,259	2,439	2,710	2,558	2,747	2365.8件

令和 7 年度 第 3 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村

くにさき翔裕園

令和7年度 くにさき翔裕園 事業報告

施設基本方針

～新生くにさき翔裕園～
基本に立ち返りつつ、サービスの質を高め本物志向へ
「寄り添い5か条を職員全員が徹底できる」がベースライン

施設年度目標

〔特定施設〕 稼働率 94% 平均介護度 2.0 以上
〔住宅型〕 稼働率 88%
～1円でも黒字経営へ～

重点項目に対する実績報告

①差別化/付加価値

4月、7月、10月、12月と地域交流イベントを開催し、地元の児童から生徒、学生および保護者など幅広い年代の方々に参加いただけるようになった。入居者およびそのご家族、地域の方により存在の周知ができた。その影響もあり、入居相談や職員採用見学の機会に繋がるケースもあったため、足を運ぶ機会、施設の取り組みを知ってもらう目標は達成できた。

②組織力の強化

各業務担当などチーム編成をし職員一人一人が役割を認識して行動できるように努めた。しかしながら行動する人とならない人に明確に分かれてしまったことからチームではなく個人への負荷が強くなってしまった。業務におけるその意味と統一性、理念も含めた方針の浸透が図れていなかったためと認識している。その改善として再度チーム編成をするだけでなく、それぞれの目的や狙いを研修し経過もサポートしていく体制が課題となる。

③採用力の強化

各就職説明会への2度の参加や採用面接マニュアル作成し、採用面接においては入職前と入職後のギャップを減らすことはできたと言える。

採用後のOJTプログラム作成し介護部門、調理部門で実行した部分もあったが、完結しない部分もあったため国際人財の教育も含め次年度の課題とする。

④生産性の向上

適正人員で運営することはできたが、より必要な曜日や時間帯の配置を適正化していくことは難しく、シフトの偏りはまだ課題として残る。

お掃除ロボットの導入やインカム導入により対利用者の時間を30分/日/人を確保することができた。

⑤収益力の向上

稼働の部分について、満床に向けて新規入居を獲得し、在籍数については目標に達することができた。また年度開始に食費と管理費を一人当たり7,500円値上げして年間500万円収益増を図った。

稼働の部分で、平均介護度が上がりきらなかったことや入院者によって稼働しなかった部分が毎月発生してしまったことにより、目標に到達しなかったため収益未達となってしまった。

⑥地域貢献

イベントや行事を通して各世代の地域の方と交流ができたことにより知名度が上がり、入居相談や職員採用のきっかけとなるが生まれる。また、同業事業者との交流も図るきっかけにもつながったことで地域の福祉に対しても共に考えることもできるようになった。直接的な地域貢献には至っていないかもしれないが、過疎地での福祉についてもっと繋がりを広げていきたい。

【全体総括】

令和7年度は、「新生くにさき翔裕園」を掲げ、地域交流イベントの開催や業務改善を通じて、施設の認知向上とサービス品質向上に取り組んだ。稼働率改善や収益向上には一定の成果が見られた一方、人材育成や組織力強化には課題も残り、次年度に向けた体制整備の必要性を再認識する一年となった。

令和8年度は、安定した黒字経営の実現を最重要課題とし、稼働率向上と収益改善に取り組む。また、人員不足への対応として国際人財の積極的な活用を進め、多様な職員が安心して働ける体制づくりを推進する。地域に必要とされる施設として、持続可能な経営基盤の確立を目指していく。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特定	R6 実績	84.1	83.2	86.8	84.6	85.0	84.4	88.8	89.7	90.2	93.9	92.1	94.7	88.1%
	R7 目標	94.7	94.7	94.7	94.7	94.7	94.7	94.7	94.7	94.7	94.7	94.7	94.7	94.7%
	R7 実績	94.0	93.0	93.3	86.3	84.2	88.6	90.7	92.1	82.7	88.0	87.0	92.7	89.4%
住宅型	R6 実績	22.5	32.3	42.5	42.9	42.9	41.9	38.5	35.5	40.4	48.0	59.4	64.1	42.6%
	R7 目標	75.0	78.6	82.1	85.7	89.3	89.3	92.9	92.9	92.9	92.9	92.9	92.9	88.1%
	R7 実績	78.0	71.5	71.8	81.6	90.8	91.0	89.3	92.9	90.4	89.3	96.3	94.2	86.4%

令和 7 年度 第 2 期 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日



社会福祉法人元気村

元気ケアプランニングセンターさいたま

令和7年度 元気ケアプランニングセンターさいたま 事業報告

施設基本方針	
居宅介護支援事業所として地域福祉を支えるとともに、グループにおける埼玉の旗艦居宅として大規模化、高効率化を推進する	
施設年度目標	
大規模居宅としての基礎固めのため、人財獲得と地域関係機関との関係強化をはかる	
重点項目に対する実績報告	
①差別化/付加価値 さいたま市内および近隣エリアを担当する、居宅介護支援事業所として、グループ事業所の向上に寄与するために以下の取り組みを行った。・地域における他事業所の良質なサービスの情報提供を自グループ事業所に行った ・利用者との信頼関係をもとに、自グループ内特養や自グループのサービスの紹介を行い入所、利用に繋げた。(別エリア特養入所1名、別エリア老健短期入所1名、市内住宅型入所2名、エリア内サービス利用開始若干名) ②組織力の強化 ケアマネジャー毎に地域包括支援センターごとの担当地域を定めることで、地域情報や、行政とのやり取りを担当者中心で行い、地域包括支援センターや行政と「顔の見える」関係作りに取り組んだ。 また内部研修に際して、各ケアマネジャー毎に研修テーマを定めることで各自の専門性を深掘りすることができるよう計画、実行した。 ③採用力の強化 令和7年度はホームページによる採用1名、グループ事業所からの異動希望により、2名の採用を行い4名体制となった。 同年度においては年度後半において予算未達成の月が生じており、5人目の採用は見送っている。 ④生産性の向上 Nomanの活用により記録業務時間の削減を行った。サービス担当者会議1時間の開催に際して標準1時間の記録時間を必要としていたところが、約10分の記録時間(内容確認、出力、データ保管のための時間)となり、担当者会議開催時間や利用者面談時間の拡充となり、ひいては利用者満足に繋げることができた。 ⑤収益力の向上 昨年に比して年間比2倍以上の利用者数、規模になったが目標数値には至らなかった。 新規依頼数が秋以降減少したことが原因であり、まずは営業の不足が原因である。同時に地域包括支援センターからの要支援ケースの受注が想定以上であり、地域包括との関係性を構築することはできたが、同時に要介護利用者の新規受注に際して、一時受け入れが困難になった時期があった。来年度は包括のみに頼らない営業体制を構築したい。 ⑥地域貢献 大宮区西部地域包括支援センターと地域介護者向けサロンを定期的で開催し地域知名度の向上と、地域包括支援センターとの信頼関係を深めることができた。また北区西部地域包括支援センター主催の地域支援会議にケース提出し、地域勉強会に貢献した。浦和区西部では継続的に包括主催の勉強会に参加し、地域での知名度を高めることができた。 【全体総括】 令和6年度に比して、規模は拡充したが後半の新規受注数が伸びず、予算数値の達成に至らなかった。 積極的な営業活動を行わず、地域包括支援センターとの関係性構築のみに注力した結果であると思われる。 ただし、地域事業所との信頼関係構築の中で、これまではこちらから依頼するのみであった訪問診療クリニックや、訪問看護事業所、総合病院から担当居宅介護支援の依頼、相談があったことは大きな収穫であった。 今後も継続して地域で「選ばれる」居宅介護支援事業所であることができるよう、体制を整えていきたい。 最終的には「グループ内の旗艦であり大規模居宅になる」ことを目指しながらも、まず地域から「相談先として信頼される」事業所であることを職員全員で継続目標として行動していきたい。	

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
居宅	R6 実績	3.0	7.0	18.0	31.0	29.0	40.0	42.0	44.0	62.0	66.0	73.0	75.0	40.8件
	R7 目標	80.0	83.0	85.0	92.0	101.0	113.0	124.0	133.0	145.0	148.0	150.0	152.0	117.2件
	R7 実績	81.0	81.3	93.3	107.0	105.0	110.3	116.3	119.3	118.3	120.0	119.6	112.3	107.0件